

The difference between a public auction method and a book-building method.

一般競争入札方式とブックビルディング方式の違い

	一般競争入札方式	ブックビルディング方式
そもそもの話	公募価格を決定しない。	公募価格を決定する。
投資家の株式購入価格	投資家毎に異なる。	全投資家で統一の価格 (公募価格のこと)
証券会社の役割	取次ぎ、窓口、仲介者	株主(買取引受を行う。)
株式への応募が少ない場合	発行会社は十分な株式数・金額の発行(増資)が行えず、また、創業者等既存株主は十分な株式数・金額の売出しが行えない。	たとえ投資家からの需要が少なくとも、買取引受の結果、発行会社は計画通りの株式数・金額の発行(増資)が行え、また、創業者等既存株主も計画通りの株式数・金額の売出しが行える。
目的	簿価を基準とした顔の見える株式の取引から、「市場取引」への円滑な移行。 →募集や売出しの時点で、その後の株式市場での取引(「市場取引」と同種の取引手法を用いなければ意味がない。	上場時点で株式を購入する投資家の株式購入価格を同じにすること。
長所	各投資家の株式購入価格は、(市場取引自体はまだだが)実質的に市場取引により決まった場合と同じになる(募集・売出しの時点で、市場取引を模している。)	上場時点で株式を購入する投資家の株式購入価格は全て同じになる。 発行会社は計画通りの資金調達が可能、 創業者等既存株主は計画通りの株式の売出しが可能。 募集・売出しの手続きが開始された後、応募が少なかった場合のリスクは全て引受人である証券会社が背負う。
短所	市場取引はまだ開始されていない(市場価格がまだない)状態なので、株式購入の申込をする投資家にとっては、参考となる価格がない。	応募数が募集数を超える場合は抽選となってしまう。すなわち、価格による需要調整メカニズムが全く働かない。その結果、上場後、株式の円滑な取引に支障が出やすい。→本来は、募集や売出し自体を、市場取引と同じ状況下で行わなければならない。
参謀作キャッチフレーズ	「購入希望から価格決定まで、上場前から市場取引と同じ。」	「誰も買わない。誰も売らない。」